

説教余滴 2018年9月2日《リスと青大将》

8月20日の朝、いつものように東の田浦隧道・トンネルの手前で引き返そうとしたら、中央分離帯の樹木の上で何かが騒がしく動いています。二匹のリスです。小さい体に大きな尾。遊んでいるのかな、一匹は下に落ちた様子。残る一匹が行ったり来たり、気ぜわしく動いています。そのうちに、ピーっと鋭い鳴き声を出しました。繰り返します。こうした鋭い鳴き声は警戒・注意信号だと聞いた記憶があります。何か切羽詰ったことがあるようです。ふと視線を自分の足元に落としてびっくり。青緑の枝が落ちていて、こちらへ動いてきます。なんと蛇です。1メートル超程度、若い青大将でしょう。色はきれい、動きは優雅、それでもなぜか薄気味悪い。ネズミのような小動物を餌にします。子リスがその辺にいるため、親リスは警戒行動を取ったのかも。

ニホンリスは、夏季は背面の毛衣が赤褐色（夏毛）、冬季は耳介先端の体毛が伸長し背面の毛衣が灰褐色（冬毛）になります。山田牧場、軽井沢で見たことがあります。

樺太経由で日本に侵入したキタリスが分化した種だと考えられています。北海道にはニホンリスはいません。代わりに、エゾリスとエゾシマリスという固有種がいます。

アオダイショウ（青大将）は、ナミヘビ科 ナメラ属のヘビ。無毒。全長100-200cm。胴の直径は5cmほどになります。日本本土では最大のヘビで、南西諸島のサキシマスジオ、シュウダ、ホンハブに次ぐ大きさです。

餌であるネズミの生息環境に対応し人家周辺でよく見られます。昼行性で、ネズミを追って家屋内に侵入することもある。樹上性の傾向が強いが、地表での活動も多く見られます。

日本本土に生息する蛇は8種類、アオダイショウ・シマヘビ・ジムグリは良く知られています。マムシとヤマカガシは有毒。田浦梅林周辺には「マムシに注意」の看板が立てられていました。